

## 長岡京市

長岡京市は京都駅から10分。嵐山から連なる西山連峰のふもとに位置する。

8世紀後半「長岡京」が当時の日本の都として置かれたところ。多くの古墳群、神社仏閣が点在し古い歴史と文化を感じさせるまち。古くから交通の要衝として栄えた。

### (長岡京)

延暦3年(784)に都が置かれ、「長岡京」として栄えました。しかし、大洪水や早良親王の怨霊に悩まされ、桓武天皇は延暦13年(794)に都を平安京に遷してしまいます。わずか10年の都であったが長岡京は、東西4.3km 南北5.3kmと広大なもので、宮域や貴族の邸宅、碁盤目に整備された道路などが発見されている。その後歴史の中に埋もれてしまいましたが、故中山修一氏の発掘調査により、「長岡京」が実在する都であることが証明されました。

## 神足神社 (こうたりじんじゃ)

平安時代からつづく式内社の一つです

旧神足村の産土神(うぶすなかみ)延喜式内で乙訓十九座の一つ

祭神は「舎人親王(とねりしんのう)(天武天皇の子)」であるといわれている。

当社には「桓武天皇の夢」として次のような伝説が残っている。

〈田村(神足村の旧名)の池に天から神が降り立ち、宮中を南から襲おうとした悪霊を防いでおられた夢を見られたと言う。天皇は目覚められ、田村にこの神を祭る社を建てさせ、太刀と絹を秘蔵させた。〉

以後、この社は「神足神社」と、田村は「神足村」と呼ばれるようになったと言われる。

神足は「神の足」とも書くことから、足の健康や怪我を防ぐご利益があるとされます。足の健康を願う人やスポーツ選手の参拝もあります。

## 神足土塁群

現存する土塁(どるい)と空堀(からぼり)は、細川藤孝(ふじたか)が元亀二年(1571)に城の大改修で造営したものです。土塁と空堀の他、土橋と横矢(よこや)の掛る土塁が残されています。神足(こうたり)神社の東側は、昭和59年(1984)に消滅しましたが、発掘調査で土塁と空堀の比高が約六メートルあること、新たに土塁下から六世紀後半の方墳である神足古墳が確認されました。

## 勝龍寺城公園

元亀2年(1571)に織田信長の意向を受け、細川藤孝により、その後の城郭の標準となる瓦・石垣・天守を備えた、先駆的な城郭として造り替えられたものです。

天正6年(1578)藤孝の子息、忠興と明智光秀の娘、玉(細川ガラシャ)の婚礼が執り行われ、2年間、この城で幸福な新婚時代を過ごしました。天正10年(1582)には山崎合戦で羽柴秀吉に敗

れた明智光秀がここへ退却し、北門から落ち延びたといわれています。

勝竜寺城公園は平成4年(1992)、勝龍寺城跡に造られた都市公園で、「日本の歴史公園100選」にも選ばれています。

### (ガラシャおもかげの水)

城にとって重要な施設となる井戸だが、勝龍寺城には4つの井戸があったという。今でも「地下水100%の水道水」として利用ができる場所がある。

本丸跡の「ガラシャおもかげの水」と名付けられた井戸。もちろん、飲むことができる。殿様やガラシャも飲んだ水かと思うと感慨深い。

### (細川忠興と玉(ガラシャ)の像)

本丸跡でひときわ目を引くのが、細川忠興と玉(ガラシャ)の像だ。玉が輿入れした15歳(16歳とも)の頃をイメージしたものだろうか。

戦国時代を代表する美女と伝わる玉。忠興も美男といわれ、美男美女の結婚式は盛大なものだったと伝わっている。勝龍寺城での生活はわずか2、3年だが夫婦仲はよく、城内で散歩を楽しむこともあっただろう。後にこの地で行われる戦いが、人生を大きく狂わすとは想像もしなかったに違いない。

### (北門跡)

細川家が丹後・宮津城へと移った翌々年の1582(天正10)年、ガラシャの父・明智光秀が織田信長に謀反を起こした。本能寺の変である。羽柴秀吉と戦った山崎の合戦で、勝龍寺城を背に本陣を置いた光秀だが大敗。勝龍寺城に退却したものの、本拠地・坂本城へと戻るため逃げ出すが、最後は落ち武者狩りにあい、その生涯を閉じた。

園内に光秀が逃げ出たとされる北門跡が残っている。高さ2メートル以上の石垣に囲まれた立派な門だったという。

## 勝龍寺

平安時代 空海(弘法大師)の開基。

元の寺号は恵解山(えげっさん)青龍寺で、観音堂を始め九十九坊が建てられていたといわれます。大干ばつ大飢饉の年に住職千観上人の祈祷で雨が降り、龍神に勝ったという意味から「勝龍寺」と改名されました。

### (ぼけ封じ観世音像)

ぼけ封じ近畿十楽観音霊場の第三霊場となっています。

生きる喜び、生かされる生命に感謝し、健康で楽しい日々が暮らせるよう、十ヶ寺の霊場寺院にお参りしましょう。

### (賓頭盧尊者像)

こちらの仏様は、心身の病んでいる所と同じ所を撫でて、一心にお参りすると病が治るといふご利益があると言われていふます。別名なで仏と言われまふす。

京都洛西観音霊場第十四番札所。

## 恵解山古墳 (いげのやまこふん)

恵解山古墳は、古墳時代中期(今から約 1600 年前)に造られた前方後円墳です。古墳の大きさは全長 128m、後円部の直径約 78.6m、前方部の幅約 78.6mで、乙訓地域最大の規模を有していふます。古墳の周囲には幅約 25mの浅い周濠(しゅうごう)があり、周濠を含めた古墳の全長は約 180mに及びまふす。

築かれた当時は斜面全体に石が葺(ふ)かれ、平らなところには埴輪(はにわ)が立て並べられていふました。古墳に葬られた人物の名前は記録に残っていませんが、古墳の大きさなどから少なくとも乙訓地域の全域を支配した実力者の墓であったと考えられまふす。

恵解山古墳では、昭和 55 年、鉄器が出土し、鉄製の武器(大刀 146 点前後、剣 11 点、槍 57 点以上、短刀 1 点、刀子 10 点、弓矢の鏃 472 点余り、ヤス状鉄製品 5 点)など総数約 700 点を納めた武器類埋納施設が発見されまふました。

山崎の合戦」で明智光秀が本陣をおいたとされる「御坊塚」は境野 1 号墳ではなく、恵解山古墳 (いげのやまこふん) とする説が最新の学説となつていふます。

## 長岡天満宮

ご祭神は、学問の神様として有名な菅原道真公です。道真公が太宰府へ左遷される途中、かつて在原業平らと共に詩歌管弦を楽しんだこの地に立ち寄り、都を振り返つて名残を惜しんだ事から「見返り天神」とも呼ばれていふます。太宰府にお供した 3 人が別れ際に戴いた道真公自作の木像をご神体として祀つたのが長岡天満宮のはじまりと云われていふます。

本殿は平安神宮から移築されたもので 府指定有形文化財に登録されていふます

参道には、推定樹齡 100 年から 150 年のキリシマツツジ (市指定天然記念物) が群生し、4 月下旬には特有の濃紅色の花が咲き誇りまふす。

### (八条ヶ池)

長岡天満宮境内の東に八条ヶ池がひろがりまふす。この八条ヶ池は、寛永 15 年 (1638) に当時の領主・八条宮が造るように命じた、灌漑用の溜め池です。外周は約 1 km、貯水量は約 35000 トンあるといふます。

豊かな池を二分する中堤は参道として使われており、中堤真ん中の石の太鼓橋は加賀前田 侯の寄進と言われまふす。

参道と水上橋からなる「八条ヶ池ふれあい回遊のみち」や、池に浮かぶ料亭「錦水亭」等は、ドラマや時代劇、ポスターの撮影等で幅広く用いられていふます。

## 長岡天満宮



当天満宮の御鎮座地長岡は、菅原道真公が御生前に在原業平と共に、しばしば遊んで詩歌管弦を楽しまれた縁深いところであります。

公が太宰府へ左遷された時、この地にお立ち寄りになり「我が魂長くこの地にとどまるべし」と名残を惜まれた縁故によって、公御自作の木像をお祀りしたのが当神社の創立であります。創立年月は不明でございますが、応仁の乱で兵火に罹り社殿が消失し、明応7年(1498)に再建したとの記録がございます。

爾来皇室の崇敬篤く度々の御寄進御造営をうけ、寛永15年(1638)には八条宮智忠親王によって「八条ヶ池」が築造されました。中堤両側に樹齢百数十年のきりしまつつじが多数植えられており、その見事さは我が国随一と言われ、花の季節には多くの観光客で賑わいます。

社地は元10万余坪に亘って居りましたが、明治維新の変革に際し上地のため、現在は2万余坪を有しております。

現有形文化財にまた、平成24年に祝詞舎(幣殿)、透塀、手水舎(旧幣殿)等が長岡京市の有形文化財にそれぞれ指定されました。在の御社殿(御本殿、祝詞舎、透塀)は昭和16年に京都の平安神宮の御社殿を拝領移築したものであります。正面朱塗りの拝殿は既存の拝殿を増改築し、平成10年秋竣工いたしました。平成23年に御本殿が京都府の有形文化財にまた、平成24年に祝詞舎(幣殿)、透塀、手水舎(旧幣殿)等が長岡京市の有形文化財にそれぞれ指定されました。